

# 断罪者のレクイエム

丑こく参り

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これは、最悪にして最凶のヒーローの物語。

あるところに一人の青年がいた。その青年が最凶の力でヒーローを目指す!!

目次

## プロローグ

「はあ、面倒だ。」

俺はそんな言葉を呟きながら天井を扇ぎみた。

俺の名前は鉄乙女罪鎖<sup>てつおとめざいさ</sup>どこにでもいるただの中学生だ。

そして、俺は今

「はっはあ!! さっさと金をよこせえー!」

ヴィラン犯罪に巻き込まれていた。

ヴィラン、それは超人社会に『個性』と言う力を振り回して犯罪を起こす犯罪者だ。そんな犯罪者を捕まえるためにヒーローが存在するが今はおいて置こう。

普段ならすでに捕まっているだろうが今回は違う。今回はコンビ二の中で立て込もっている上、幼い子供を人質に取り、金を請求しているのだ。

更に厄介なことにそのヴィランはパワー増強型の個性のため、子供一人を殺すのに一秒もいらぬ。

其が理由で外にいるヒーローたちは何一つとして手を出せない状況になっているのだ。

「おらあ!! さっさと金を用意しろお!!」

「ママ、ママアーーー!!」

幼い子供を人質に取り、更に金まで請求する、か。ふざけた悪だ。本当に心底悪くなる悪だ。

「はっはっはっ!! ……え? あぎいぱのごがあー!」

突如、ヴィランの男が苦しみ出したかと思うと身体中の至るところからおびただしい量の血液を放出した。

「ビューー……ビューー……」

男は微かな呼吸音と共に死亡した。

……ああ、またやってしまった。

「さて、帰りますか。」

俺は男の横を通りすぎ、そのままコンビニ内の裏口から出ていった。

俺の個性は『処刑』

自分が『罪』だと認識し、相手を『悪』だと心底決めつけた時、相手を物理的、个性的な要因を無視して相手を処刑するある意味最悪の個性。

それが俺だ。

|||||

酷いものを見た。

とあるヒーローのサイドキックをしていたけれどあれだけ不可解な事件は初めてだ。

パワー型のヴィランがコンビニに押し入り、子供を人質にして立て込もって、お金を要求してくる。

ウチの雇い主のプロヒーローは精神系の個性だから立てこもり事件何かによく呼ばれて来ることが多い。

そして、今回の事件の内容は典型的なヴィラン犯罪とも言える。

けれど、立てこもりが始まって十分程がたった時、事態は急変した。いきなり大量の血液がガラスに付着したのだ。

ウチはこの時、ヴィランが人を殺したんだな、なんて思ってしまった。そして、助けられなくてごめん、とも思った。

事態を重く見たプロヒーローはわずか一分程で強硬突入の準備を整えた。

「よし、行くわよテレサ!!」

「わかっていきます、パトロン!」

そして、今からコンビニに強硬突入するところだ。他のヒーロー事務所のサイドキックたちと連携し、準備を完了させ、突入した。

ーそこにあったのは、私の想像を遥かに超えていた。

「え、何…これ。」

思わずウチはそう口からこぼしていた。

何せ、まさかのヴィランと思われる男性が殺されていたのだ。男性は身体中から血を流し、動かす時、その体重があまりにも軽かった。多分、身体中の血液がほぼ全て外に出たのだろう。

「う…。」

あまりにも凄惨な死体に吐き気を催しながらも何とか調査を開始する。

ウチの個性は『交信』。霊と話す事ができる個性だ。霊は何故か口が軽くて直ぐ情報を話してくれる。ただ、ウチは幽霊が苦手だからあんまり好きじゃないけど…。

「あの、あなたはどうかやって死ん」

『おらあ!!金をよこせえ!!ヒーローども!!』

「きやあ!？」

幽霊となった男に話しかけた瞬間、私の顔にパンチを繰り出してきた。もちろん、幽霊だから痛くも痒くもないけどそれでも怖いものはこわい。

「ど、どうしたの？」

「い、いえ…。ゆ、幽霊との交信はできました…。」

「それで、どうだった？」

「…、死んだことに、気がついていませんでした。」

こうゆう事が起きるのは幽霊が本当に認識するよりも早く殺されるか、認識が追いつかないほど唐突に殺されたか、のどっちかになる。ということだ。

「なるほどね、さつき被害者の一人に聞いたんだけどね被害者はもう一人いたらしいのよ。男で小柄で中性的な顔立ち、白髪で片眼が赤く、もう片眼が青い若い男らしいわ。」

「わ、わかりました。」

本当にこの男性を殺したのは誰でしょう…。